舞鶴市議会
市民文教委員会
活動報告

- 岐阜県美濃市における取組の調査
- 愛知県小牧市における取組の調査
- 長野県長野市における取組の調査

市民文教委員会視察　実施日：令和8年5月18日～20日

視察の目的

本委員会では、**夢に向かって将来を切り拓く子どもを育成するための環境づくりに関する調査・研究**を重点事項に掲げていることから、**児童生徒の不登校への対策に関する取組**に関し、美濃市、長野市の事例を調査することとした。

また、もう一つの重点事項である**確かな学力の育成に関する取組**においては、ICTを活用した学習や教育環境の充実を推進しておられる小牧市の事例を調査することとした。



舞鶴市議会のホームページに視察報告書を掲載していますので、ご覧ください。

視察先及び日程

日　程		視察先	調査事項
令和8年5月18日(水)	13時30分～15時00分	岐阜県美濃市	あんきに行ける学校プロジェクト美濃について
令和8年5月19日(木)	10時～11時30分	愛知県小牧市	第2次小牧市学校教育ICT推進計画について
令和8年5月20日(金)	9時30分～11時30分	長野県長野市	不登校児童生徒の支援体制について

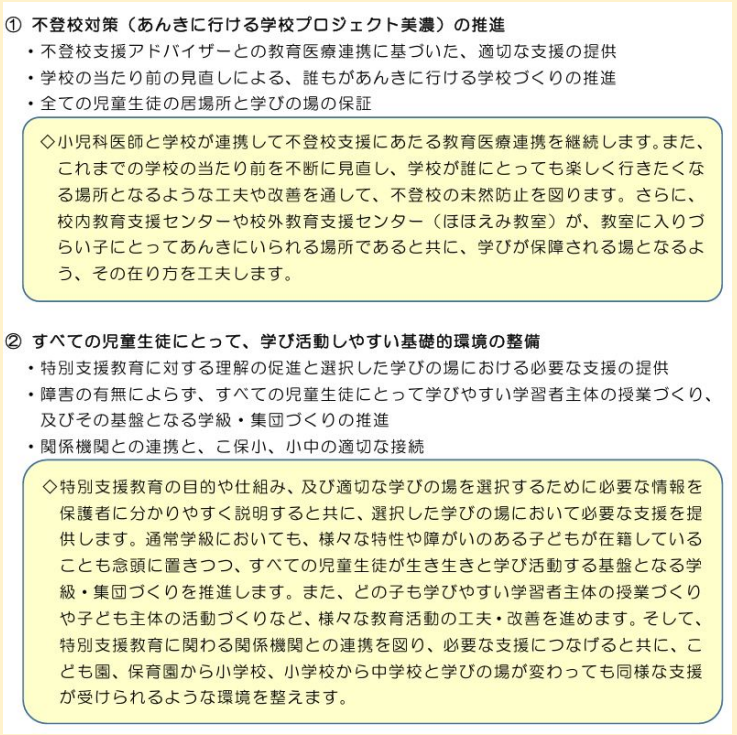
市民文教委員会調査視察　実施日：令和8年5月18日～20日

【岐阜県美濃市】調査事項：『あんきに行ける学校プロジェクト美濃』について

≪美濃市の取組の概要≫

◇美濃市では、令和6年度から「あんきにいける学校プロジェクト美濃」を開始し、市内全小中学校にスクールカウンセラーを派遣し、相談業務の拡充に取り組まれている。また、不登校児童生徒や保護者の医師との相談会や教職員への研修会等を行っている。

◇教職員、医師、スクールカウンセラー、教育委員会との間で不登校支援チームを結成し、いつでも情報共有を行えるようにしておられる。
このチームでは、学校生活に困りごとを抱いている子についても情報共有を行っており、不登校のきっかけとなる要因を早期に把握・専門的な知識をもとに支援する体制を敷いておられる。



① 不登校対策（あんきに行ける学校プロジェクト美濃）の推進
・不登校支援アドバイザーとの教育医療連携に基づいた、適切な支援の提供
・学校の当たり前の見直しによる、誰もがあんきに行ける学校づくりの推進
・全ての児童生徒の居場所と学びの場の保証

◇小児科医師と学校が連携して不登校支援にあたる教育医療連携を継続します。また、これまでの学校の当たり前を不断に見直し、学校が誰にとっても楽しく行きたくなる場所となるような工夫や改善を通して、不登校の未然防止を図ります。さらに、校内教育支援センターや校外教育支援センター（ほほえみ教室）が、教室に入りづらい子にとってあんきにいられる場所であると共に、学びが保障される場となるよう、その在り方を工夫します。

② すべての児童生徒にとって、学び活動しやすい基礎的環境の整備
・特別支援教育に対する理解の促進と選択した学びの場における必要な支援の提供
・障害の有無によらず、すべての児童生徒にとって学びやすい学習者主体の授業づくり、及びその基盤となる学級・集団づくりの推進
・関係機関との連携と、こ保小、小中の適切な接続

◇特別支援教育の目的や仕組み、及び適切な学びの場を選択するために必要な情報を保護者に分かりやすく説明すると共に、選択した学びの場において必要な支援を提供します。通常学級においても、様々な特性や障がいのある子どもが在籍していることも念頭に置きつつ、すべての児童生徒が生き生きと学び活動する基盤となる学級・集団づくりを推進します。また、どの子も学びやすい学習者主体の授業づくりや子ども主体の活動づくりなど、様々な教育活動の工夫・改善を進めます。そして、特別支援教育に関わる関係機関との連携を図り、必要な支援につなげると共に、こども園、保育園から小学校、小学校から中学校と学びの場が変わっても同様な支援が受けられるような環境を整えます。

https://www.city.mino.gifu.jp/fs/3/2/2/5/5/4/_/_3_____.pdf
美濃市：第3期 美濃市教育大綱（案）

《委員の所感》

◇専門医による児童生徒への相談や教職員への研修は他市にない取組であり、医学の目で見なければいけない子どももいるということが認識できた。

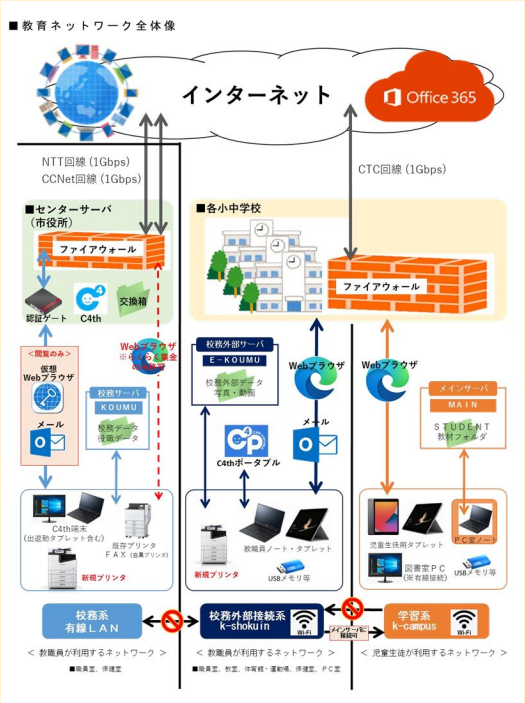
◇教職員やスクールカウンセラー、医師などの連携による不登校対策は単に子どもを学校に戻すことを目的とするのではなく、子どもの心身の状態を総合的に支える体制づくりとして、大きな効果が期待できる。

市民文教委員会調査視察　実施日：令和8年5月18日～20日

【愛知県小牧市】調査事項：第2次小牧市学校教育ICT推進計画について

≪小牧市の取組の概要≫

◇教員の働き方改革を推進しており、教員間で校務支援システムのグループウェアやクラウドサービスを活用し、伝達事項、各種資料及び教材をオンラインで共有している。
また、校内研修をオンラインで実施、教員がいつでも研修内容を振り返られるようにアーカイブ視聴の環境を整備している。
◇しかし、各種デジタル化やオンライン化を進めてきたが、学校現場においては、依然として紙の資料が多く見られることも事実であり、業務の円滑化・効率化の観点から各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進める必要があると実感されている。



《委員の所感》

◇教職員間においては、校務支援システムのグループウェアやクラウドサービスを活用し、伝達事項、各種資料及び教材をオンラインで共有している。これにより、紙資料の削減や情報共有の迅速化が進められており、必要な情報をいつでも確認できる環境が整備されていた。
◇機器やシステム等の進化に大変苦労されている現状も理解でき、最適なツールを選択する難しさや導入時期の判断・予算確保が今後も大きな課題であることが共有できた。生成AIやメタバースの活用も含め、最新機能を最適に活用するためには専門的に調査や研究する必要があり、小牧市にはその体制が整っている羨ましさを感じた。
◇校務支援は働き方改革にとって重要であるが、効果を高めるには、よく現場の状況を踏まえる必要があることが学べた。タブレット端末の家庭学習の利用は、タブレットが重たいため、特に小学生には持ち運びの負担がある。

https://www.city.komaki.aichi.jp/material/files/group/102/2nd_ictplan.pdf
小牧市：第2次小牧市学校教育ICT推進計画

市民文教委員会調査視察　実施日：令和8年5月18日～20日

【長野県長野市】調査事項：不登校児童生徒への支援体制について

≪長野市の取組の概要≫

◇不登校児童生徒の支援として市内に教育支援センターSaSaLAND(ササランド)を設置されている。本施設では、子どもたちの社会的自立に向けた支援としてメタバースによるオンライン活動やスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家の保護者への支　援も手厚く行っている。

◇特にメタバース(ゲーム：マインクラフト)上で自宅にいながら人との関わりが持てることはその後のSaSaLANDへの利用に繋がるなど特筆すべきことであった。

◇信州大学教育学部と関連したイベントや学生ボランティアをSaSaフレンドとして一緒に遊んだり、話したりする活動を実施している。

《委員の所感》

◇長野市では、信州大学とも連携をし、教育支援センター「SaSaLAND」を中心に据え、不登校児童生徒一人ひとりに応じた支援体制を構築している。特徴としては、単に「学校復帰」を目的とするのではなく、子どもの希望を取り入れ安心できる居場所づくりを重視している点である。

◇不登校支援においては、子ども本人だけでなく、保護者への支援も重要視されていた。
保護者同士の交流や相談機会を設けることで、孤立感の軽減や情報共有につなげており、「家庭を支える視点」が強く感じられた。不登校は家庭だけで抱え込む問題ではなく、地域全体で支えるべき課題であるとの認識が共有されていた。

◇どうしても関係機関との連携で対応しがちの事業を、教育委員会直轄で行うことで教育全体の一部として取り組まれており、市民や当事者に対して市の熱い思いを直に感じることができる。



https://www.city.nagano.nagano.jp/documents/13958/260107.pdf
長野市：SaSaLANDパンフレット